## 看護小規模多機能型居宅介護 ケアホーム希望





(株)つつじヶ丘在宅総合センター 〒182-0006 調布市西つつじヶ丘2-19-6 第三コーポ横田 1F

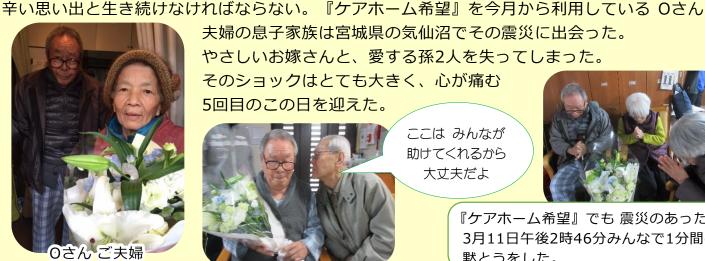
**3** 03-5315-5722



## 平成23年 3月11日の東日本大震災発生から5年

震度6以上の地震が…その直後大きな津波が多くの犠牲者を出し、原発をも破壊 した。15,894人もの人が亡くなり、いまだに身元が発見されていない人も多い。

そして震災直後の人々は生き延びるために必死になり、震災発生から5年を迎える。 復興にむけ、周囲の環境は少しづつ変わろうとしているが、震災を受けた人達の心は悲しく、



夫婦の息子家族は宮城県の気仙沼でその震災に出会った。 やさしいお嫁さんと、愛する孫2人を失ってしまった。 そのショックはとても大きく、心が痛む

5回目のこの日を迎えた。



ここは みんなが 助けてくれるから 大丈夫だよ



『ケアホーム希望』でも 震災のあった 3月11日午後2時46分みんなで1分間の 黙とうをした。

毎年3月11日になると新聞やテレビ等のメディアで震災時の状況やその後の復興状況が連日報道さ れるが、いつの間にか人々の記憶から少しづつ薄れてきている。

今回は気仙沼に住む Oさん夫婦の息子 K さんが震災復興に向けて頑張っている姿を聞き、今だか らこそ、私たちが出来ることを考えなければならない。Kさんは助かった小学生の息子を抱え、家業 の牛乳販売を営んでいる。震災当時は愛する家族を失った悲しみで何も考えられず、途方に暮れる毎 日で生きる希望さえなかったという。荒れ果てた町に作られた仮設住宅で野球好きの息子とキャッチ ボールをするのが唯一安らぎの時間だった。そんなある日、「お父さん、気仙沼にバッティングセン ターをつくってよ!」の一言が父親を奮い立たせ、いつしか町の人たちみんなの夢となり、バッティ ングセンターができた。 K さんは「思いを口にして、共有できる仲間がいると夢は必ず実現する」と 実感したという。また、復興に向けて全国をまわり、気仙沼の物産展を開いたり、「希望ののむヨー グルト」や「塩サイダー」等のオリジナル商品を開発し、インターネット等で販売をしている。

Oさん夫婦も緑ヶ丘で販売し、息子や孫を支えている。『ケアホーム希望』では、 昨年の夏「塩サイダー」を購入。高齢者はのど越しのいいサイダーが大好きで、更に 塩分が入っているので脱水予防にもなり、最高な飲み物である。

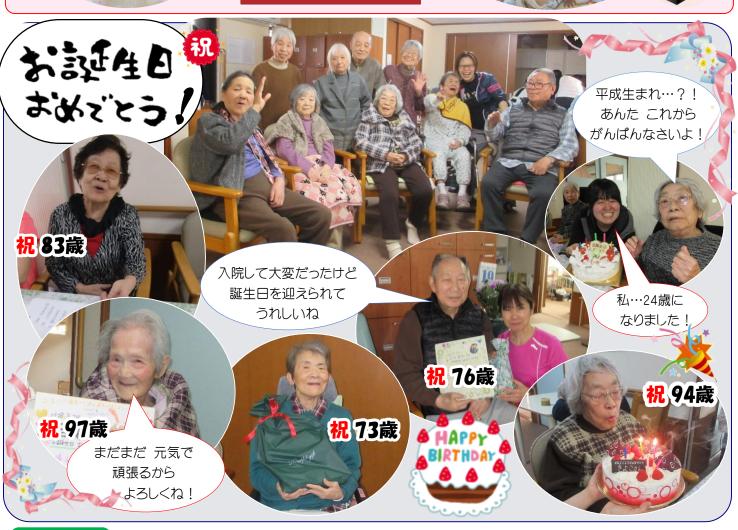
またKさんは、震災の恐ろしさや、その対策、復興に向けての講演を全国で行い、 その状況を本にし、 \*こころ、の復興こそが大事であると伝えている。





Kさん、ご両親がいつまでも元気にお嫁さんやお孫さんの分まで長生きできるよう支援します。 安心して復興に向けた活動をこれからもがんばってください! ケアホーム希望 職員一同より





## 希望誌

宮城県気仙沼から20歳で上京して以来、70年余り東京で一人暮らしを続け、 平成26年に食欲低下、脱水症状で『ケアホーム希望』の利用となる。

毎日、玄関先で雨の日も雪の日も職員の迎えを笑顔で待っていてくれた Mおばあちゃん。

3月17日 95歳 老衰で安らかに『ケアホーム希望』で、みんなに 見守られ永眠しました。

いつも元気な笑顔をありがとう! Mおばあちゃん 天国で安らかに。

